

2024年2月7日

株式会社 バイタルケーエスケー・ホールディングス

2024年3月期(第15期) 第3四半期 決算補足説明資料

©VITAL KSK HOLDINGS, INC.

当資料は、株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングスの2024年3月期(第15期)第3四半期(4-12月)の決算補足説明資料です。

2024年2月7日にリリースした四半期決算短信と併せてお読みください。

1. 2024年3月期 第3四半期 決算ハイライト

それでは、まず2024年3月期 第3四半期の決算ハイライトについてです。

損益概況

単位:百万円、%

	2023年3月期 4-12月 実績		2024年3月期 4-12月 実績			
	金額	売上比	金額	売上比	前期比 (注1)	進捗率 (注2)
売上高	444,384	—	448,909	—	—	76.9
営業利益	3,061	0.69	5,658	1.26	—	108.8
経常利益	4,302	0.97	6,506	1.45	151.2	103.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,433	0.55	5,054	1.13	207.7	91.9

(注1) 前期比は、従来、メーカーへの販売情報提供に係る収入を「営業外収益」の「受取事務手数料」として計上していましたが、当期より、表示方法の変更により、「売上高」に含めることに変更しました。この変更に伴い、前年比を記載していません。

(注2) 進捗率は、2024年2月7日に発表した通期業績予想の修正後の数字に対する進捗率を示しています。

©VITAL KSK HOLDINGS, INC.

3

当第3四半期連結累計期間の売上高につきましては、主力の医薬品卸売事業におきまして、医療用医薬品市場全体の伸長に加え、抗がん剤や新型コロナウイルス感染症治療薬、インフルエンザ治療薬等の販売が好調に推移したことから、前同実績より45億円増の4,489億円となりました。

次に、営業利益につきましては、上述の増収効果に加えて、得意先1軒ごとに取引コストを意識した価格交渉を進めたことや、前期計上した大口得意先に対する貸倒引当金の反動などにより前同実績よりも26億円増の56億円となりました。

経常利益につきましては、営業利益の増益効果により、前同実績より22億円増の65億円となりました。

最後に、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、上述の経常利益の増益に加えて、政策保有株式の処分による特別利益の計上により、前同実績より26億円増の50億円となりました。

セグメント別利益

医療用医薬品	101.5%
試薬医療機器	94.3%
一般用医薬品	87.4%

単位:百万円、%

	医薬品卸売事業 ※1			薬局事業 ※2		動物用医薬品卸売事業 ※3		その他事業 ※4	
	実績	売上比	前同実績	実績	前同実績	実績	前同実績	実績	前同実績
売上高	423,218	—	419,449	14,295	13,769	8,472	8,164	2,922	3,000
売上総利益	30,548	7.22	29,267	3,592	3,571	1,247	1,272	2,961	2,825
販管費	25,337	5.99	26,457	3,333	3,494	958	988	3,124	3,061
営業利益	5,211	1.23	2,810	259	77	288	283	▲162	▲236

※1: バイタルケーエスケー・ホールディングス、バイタルネット、ケーエスケー

※2: オオノ、グッドネイバー、健康堂薬局等

※3: アグロジャパン

※4: 農業卸売事業、介護事業等

※5: セグメント間の販管費調整額の記載を省略しているため、セグメント別の販管費と営業利益を合計しても前頁の合計額に一致しません。

©VITAL KSK HOLDINGS, INC.

4

次にセグメント別利益についてです。

まず、医薬品卸売事業につきましては、2023年4月の薬価改定や一部メーカーの取扱い停止の影響、新型コロナウイルス関連の検査試薬や機器等の販売が落ち込んだことによるマイナスの影響はあったものの、前述したように、抗がん剤や新型コロナウイルス治療薬やインフルエンザ治療薬等の販売が想定以上に伸長し、これらが減収分を上回り、前同実績よりも、37億円増の4,232億円となりました。また、営業利益につきましては、この増収効果に加えて、得意先1軒ごと取引コストを意識した粘り強い価格交渉を進めたことや、前期に計上した大口の貸倒引当金の反動も相まって、前同実績よりも24億円増の52億円となりました。

次に、薬局事業につきましては、2023年8月に事業譲受により1店増加したことに加え、調剤技術料収入および薬学管理料収入の増大に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に変更されたことに伴う人流増加等により受付処方箋枚数が増加したことなどから、売上高は前同実績より5億円増の142億円となりました。営業利益は、主に、のれんの償却費が大幅に減少したことで、前同実績より1.8億円増の2.5億円となりました。

続いて、動物用医薬品卸売事業につきましては、コンパニオンアニマル部門の売上が伸長し、前同実績よりも3億円増の84億円となりました。営業利益は、仕入価格の上昇による売上総利益の減少を販管費の減少(前期の貸倒引当金の反動)で補い、ほぼ横ばいの2.8億円となりました。

最後に、その他事業につきましては、主に農薬・農業資材等卸売事業の仮需の反動により、売上高は前同実績より0.8億円減少の29億円となりました。営業利益は、人流増加等によりスポーツ関連施設運営事業や介護関連事業における収益改善があり、前同実績よりも0.7億円赤字幅

が縮小し1.6億円の営業赤字となりました。

2. 2024年3月期 通期業績予想の修正

続いて、2024年3月期 通期業績予想の修正についてです。

2024年3月期 通期業績予想の修正

単位:百万円、%

	2024年3月期 当初予想 (2023年5月12日発表)		2024年3月期 修正後 業績予想 (2024年2月7日発表)				2023年3月期 前期実績	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	前期比	金額	売上比
売上高	576,000	-	584,000	-	8,000	-	581,327	-
営業利益	4,700	0.82	5,200	0.89	500	-	4,024	0.69
経常利益	6,000	1.04	6,300	1.08	300	105.7	5,960	1.03
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,200	0.90	5,500	0.94	300	113.8	4,831	0.83

(注) 当社は、従来より、メーカーへの販売情報提供に係る収入を「営業外収益」の「受取事務手数料」として計上しておりましたが、当期の第1四半期連結会計期間より「売上高」に含めることとした表示方法の変更を行っております。この表示方法の変更を反映させるため、前期実績の組替も行ってあります。

©VITAL KSK HOLDINGS, INC.

6

当社グループ主力の医薬品卸売事業におきまして、2023年4月の薬価改定や一部メーカーの取扱い停止の影響、新型コロナウイルス関連の検査試薬や機器等の販売が落ち込む等によるマイナスの影響はあったものの、コロナ治療薬やインフルエンザ治療薬等の販売が想定以上に伸長し、これらが減収分を上回り、好調に推移しております。

また利益面においても、この増収効果に加えて、得意先1軒ごと取引コストを意識した価格交渉を進めた結果により、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、いずれも前回予想を上回る見込みとなりました。この状況を踏まえ、2023年5月12日に発表しました2024年3月期通期連結業績予想を見直すことにし、本日(2024年2月7日)上記の内容で発表いたしました。

3. 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

次に、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応についてです。

■ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

当社は、2023年12月25日開催の取締役会において、『資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応』について、現状を分析・評価し、改善に向けた取組み方針及び目標等を決議しました。

詳細は、下記リンクよりご確認ください。

[資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応](#)



[2024年3月期 株主・投資家との対話の状況について](#)



当社は、2023年12月25日開催の取締役会において『資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応』について、現状を分析・評価し、改善に向けた取組み方針及び目標等を決議し、当社Webサイト上で公開しております。

リンクより詳細をご覧ください。

4. 株主還元について

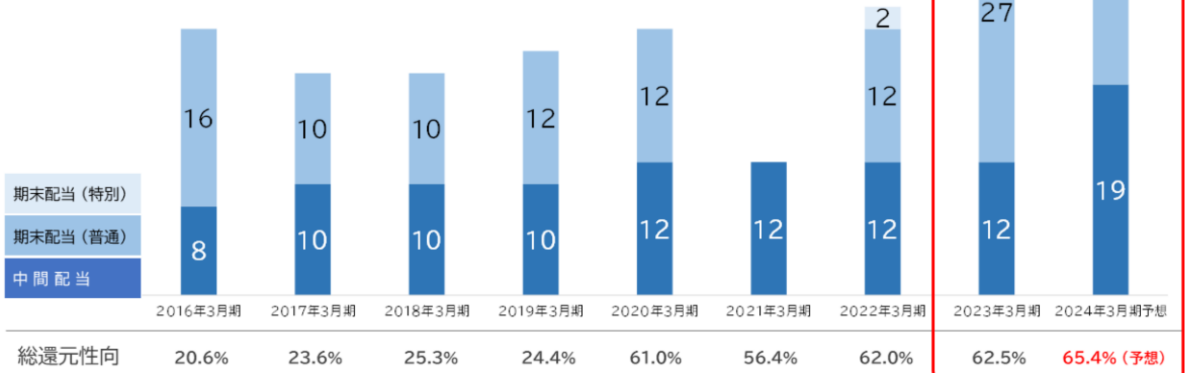
次に、株主還元についてご説明します。

株主還元策の状況

単位:円

第14期(2023年3月期)からの新しい株主還元方針

- 配当方針 : 毎期 DOE 2%以上
- 総還元性向方針 : 毎期 50%以上



©VITAL KSK HOLDINGS, INC.

10

株主還元については、前期より配当方針をDOE2%以上に変更したことに伴い、当期の配当も中間配当19円、期末配当20円の合計39円を予想しております。

また、当期中に実施した自己株式の取得と、2024年2月7日に修正発表した当期の親会社株主に帰属する当期純利益をもとに算出した結果、今期の総還元性向は65.4%になる予想です。

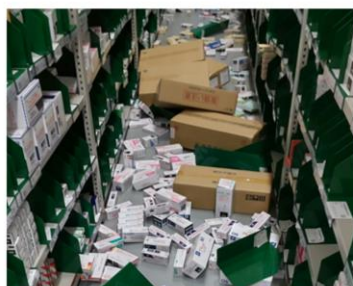
当社は、今後も株主の皆様への還元を経営の最重要課題と位置づけ、その強化に取り組んでまいります。

5. 2024年1月1日に発生した 能登半島地震での対応について

最後に、2024年1月1日に発生した能登半島地震における現地の状況や当社グループの対応についてご説明します。

2024年1月に発生した能登半島地震での当社グループの対応

- 1月1日 16時10分 持分法適用会社の医薬品卸である株式会社ファイネスが営業拠点を置く石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生
- 1月2日 震災発生から翌日には、震源に近い一支店を除き、物流拠点の復旧作業完了
- 1月3日以降 グループ会社からの支援物資や災害対策車両が随時被災地域に届く
被災した社員も多いが、徐々に企業活動を再開し、地域ヘルスケアを支えている



地震直後の倉庫のようす
多くの商品が落下し、床に散乱



ケーエスケーから水9トンの支援
被災した社員や得意先に配布



バイタルネットから災害対策車両の
提供を受け、被災地に物資を運ぶ

©VITAL KSK HOLDINGS, INC.

12

本年1月1日16時10分に、石川県の能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生しました。石川県は、当社グループの持分法適用会社である株式会社ファイネスが多くの営業拠点を置いている地域です。

ファイネスでは、震災直後から経営幹部を中心に連絡を取り合い、発災翌日の1月2日には、震源に近い七尾支店を除き、物流拠点の復旧作業を完了いたしました。

1月3日以降は、グループ会社からの支援物資や災害対策車両が随時被災地域に届くようになりました。ファイネスの中には、被災した社員も数多くおりますが、地域のヘルスケアを支えるという強い使命感の下、徐々に企業活動を再開し、各地に医薬品を届けております。

なお、今回の令和6年(2024年)能登半島地震による損害額は現在精査中ですが、現時点で連結業績に与える影響は軽微であると考えております。

■ 将来見通しに係る記述事項

本資料で記述されている当社の将来の計画・戦略・業績予想などは現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、経済情勢・市場環境等の様々な要因の変化により、実際の事業内容や業績はこれらの見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを、ご承知おきください。

従いまして、当社の業績や企業価値等をご検討される際にこれらの見通しのみで全面的に依拠することは避けていただきますようお願いいたします。

また、本資料に記述するいかなる情報も、当社の株式等の購入や売却を勧誘したりこれらに対する投資をアドバイスする目的で作成されたものではありません。

投資に関するご判断は、ご自身にてお願いいたします。

将来見通しに係る記述事項につきましては、ここに記載の通りです。

■ お問い合わせ先

株式会社 **バイタルケ-エスケー-ホールディングス**

コーポレートコミュニケーション部

TEL : 03-5787-8550

Mail : ir@vitalksk.co.jp

担当 : 佐藤(健)、南城

当資料に関するお問い合わせは、当社コーポレートコミュニケーション部までお寄せいただきますようお願いいたします。